

授業概要

①理論と実務の両方を網羅：ベンチャー企業のマネジメントに関する経営理論を網羅し、はじめて学ぶ学生が必要な理論を体系的に学ぶことができる。理論だけでも、逆に実務的なハウツーだけの講義でもない。理論と実務の融合こそが本講義のねらいである。また、主にはベンチャー企業の立ち上げを想定しているが、先にも記したように大企業やファミリー企業（同族企業）において新規事業を創出してイノベーションを図りたい場合にも参考となるように指導する。②豊富なケーススタディをもとに、実際にベンチャービジネスを始めることを前提に解説：私が見聞した、多くのベンチャー企業や大企業の新規事業立ち上げのケーススタディをもとに学ぶ。ケーススタディとして挙げた企業は必ずしも成功企業として取り上げたわけではない。必要な機能や要素を含んだ典型的なケーススタディを取り上げた。今後、環境の変化で倒産する企業のケーススタディが出てくるかも知れない。それがベンチャー企業というものである。また、授業全体を通してグループごとにビジネスプランを作成し、プレゼンテーションをすることを前提にしている。グループごとに、毎週、次の授業までの課題の内容を討議する。

授業計画

第 1 回	ベンチャー企業とは何か？：講義の全体像の紹介 【ケース】 オイシックスドット大地
第 2 回	ビジネスプランをどのように作成するのか？
第 3 回	第Ⅰ章 チャンスの見極め：どのように爆発するネタを仕入れるか？ 経営理念とは何か？【ケース】 サウスウエスト航空
第 4 回	新しいビジネスアイデアをどのように見つけるか？【ケース】 ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング
第 5 回	仮説の検証とは何か？【ケース】 WHILL
第 6 回	第Ⅱ章 起業のプロセス：うまくいく組織をどのように効率的につくるか？ ビジネスモデルをどのように創出するか？【ケース】 アクスル
第 7 回	最良の経営チームをどのように構築するのか？【ケース】 ワイズセラピューティックス
第 8 回	ライバルとどのように差別化するか？【ケース】 カーブス
第 9 回	資金調達をどのように行うのか？【ケース】 グリー
第 10 回	支援者にはどのような人がいるのか？【ケース】 ジンズ田中仁：現代の松下村塾
第 11 回	第Ⅲ章 成長マネジメント：いかに成長し続けるか？ キャッシュ・フローをいかに厳密に管理するか？【ケース】 インクス
第 12 回	大企業といかにネットワークを強めるか？【ケース】 ユーグレナ
第 13 回	株式公開・M&A をいかに成し遂げるか？【ケース】 サイバーダイナ
第 14 回	ビジネス・プランコンテストで優勝するには？【ケース】 エコオロギ
第 15 回	リスク・リターンに適正な活力ある社会の構築へ：アントレプレナーシップの普及に向けた提言
第 16 回	ビジネス・プランコンテスト

到達目標

ほんの5年前には想像もつかなかった技術・サービスが当たり前に使われるほど、企業の変化は大きなものであるが、それを主体的に引き起こす側と遅れて受動的に取り入れる側に大きく二極化しているように思う。現在の日本も大きく変化しているが、世界的なイノベーションのスピードと比べると遅いように思う。このような現状を打開し、世界的なイノベーションを日本から主体的に引き起こし続ける企業、個人、学生を多数輩出したい。

履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本講義では大切にしたいと考えている。

予習・復習

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

評価方法

1) ビジネス・プランコンテスト(40%) 2) プレゼンテーション(30%) 3) リアクションペーパー(20%) 4) 講義への貢献度、グループ討論(10%)

テキスト

- ・教科書名：『ベンチャー経営論：はじめての経営学』
- ・著者名：長谷川博和
- ・出版社名：東洋経済新報社
- ・出版年 (ISBN)：2018年 (978-4492502969)

また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。